

## 海外所在の日本歴史資料について (IV)

埜

叡\*

## はじめに

本稿は「海外所在の日本歴史資料について」(I), (II), (III), に続いて1990年後半から1992年8月ごろまでの筆者にとっての新知見と, その他の補遺についてのべることにする。最近の世界政治の変動はめまぐるしく, ソビエト連邦の解体, 東西両ドイツの統一はもとより, ユーゴ, バルカンその他の今後の見通しはきわめてむずかしい。各種資料の保存機関, 資料の保存状況もそれらの影響を少なからず受けるものと考えられる。例えば機関の呼称についても, ただソビエトをロシアとよみかえればよいのか, 東ドイツをドイツといいかえればよいのかという問題がある。しばらくは事態の成り行きを静観する必要があると思う。もちろん資料調査は今後も続行するが, 一応今回で完結ということにして, 他日を期したいと考える次第である。

A: イギリス

(1) 『JAPAN と英吉利西—日英美術の交流 1850—1930』展が1992年2月から3月にかけて東京世田谷美術館で開催された。イギリスに存在するものは次の通りである。

(イ) エディンバラ市アートセンター

ジェームズ・ケイデンヘッドの「日本の屏風と金魚と婦人」(1866年)がある。(同展の『図録』p.93, 以下同じ)

(ロ) 王立建築家協会 (ロンドン)

ウィリアム・イーデン・ネスフィールドの「スケッチブックII」は, 1862年の万国博覧会のさい陳列された日本の絵本からとった素描であるといわれている。(p.100)

(ハ) ホーンビー図書館 (リヴァプール)

\* 本学教養教授

ウォルター・クレインの「ひとつ・ふたつ, 靴のバックル止めて」には日本の団扇や浮世絵が描かれている。クレインは豊国の浮世絵をいくつか持っていたといわれる。(P.132)

(ニ) ジャパン・ソサエティー (ロンドン)

江戸出身の如春という人(生没年不詳)の「実色一覧」は20か国以上の外国人の服装が示されている。なお, 大英図書館には如春の『漂流記』(1863年, 浜田彦蔵の体験談)があるという。(P.55)

(2) オックスフォード大学

(イ) 森林研究所

ゲオルク・マイスターの“Flora Japonica (『日本植生』)がある。(『ドイツ人の見た元禄時代, ケンペル展』の図録による。(P.73,155)

(ロ) 図書館

ウィリアム・アダムスのシーアドベンチャー号の『航海日誌』を所蔵している。

(3) ケンブリッジ大学図書館

近松門左衛門の狂言本(正徳四年正月)である「傾城宝の山崎通」, 「浅間嶺」, 「中村七三郎卅三回忌追善狂言」がある。(信多純一『近松の世界』, 平凡社, 1991, P.217) またアーネスト・サトウのコレクションによるコーニッキ, 林望『ケンブリッジ大学所蔵和漢古書総合目録』, 1991年が同大学から刊行され, これにはアストン・シーボルトのコレクションも含まれている。 (“Early Japanese books in Cambridge University Library”)

(4) 自然史博物館

日本の植物標本はスローン卿の押し花コレクションである。「ヤマアサとチャ」, 「イノモトソウ, ニシキウツギ, ヨモギ, ハハコグサ」, 「ヤマゴボウ, ユキノシタ」, 「ウルシ属」がある。またダンツィヒの植物学者ヤコブ・ブラインの押し花コレクションとして「ひのき, チャ, ネムノキ」があ

る。(前掲『ケンペル展図録』P.141, 155, 156)

(5) スコットランド国立美術館(エディンバラ)

ジョン・ラヴリーの「北斎と蝶」がある。(前掲『JAPANと英吉利西展図録』, p.168)

(6) スコットランド王立博物館(エディンバラ)

江戸・明治期の袱紗 18 点を所蔵する。(竹村昭彦『袱紗』, 岩崎美術社, 1991 年, P.213)

(7) 大英図書館, 大英博物館

(イ) サー・ハンス・スローン文書

①『請状之事』, 1692 年 7 月(ヨーゼフ・クライナー編『ケンペルのみたトクガワ・ジャパン』, 六興出版社, 1992 年, 口絵, PP.236~240)

②『雲金日曆書』③「大日本年号図」④「出嶋門鑑」⑤押し絵 60 点(以上図書館)

(ロ) ラザーニッツ編, 全 2 冊, 『マイナーツァーゲン, 大英博物館蒐集根附索引票集』, 1986 年

(ハ) ハリス『大英博物館根附図録』, ロンドン, 1987 年

これはハル・グランディのコレクションによるものであり, 根附に対する海外の関心は高い。

(ニ) 柴田是真の「賀茂祭図」, 春信の「艶女俳諧夜乃湊」を所蔵する。(『芸術新潮』1991, 3 月号, P.60)

また「日吉山王祭礼図」の左双が発見された。下村観山の「瞑想のディオゲネス」が里帰りした。(前掲『JAPANと英吉利西展図録』P.155)

(ホ) 河鍋曉斎の作品があり, ウィリアム・アンダーソン旧蔵のものである。吉田漱監修『曉斎の戯画』は「虫の踊り」ほか 33 点をのせている。(東京書籍, 1992, P.173)

(8) The Public Record Office

リチャード・ヘンリー・ブラントンの「信濃川河口改良計画説明図」(1972 年)がある。(『R・H・Brunton—日本の灯台と横浜のまちづくりの父』, 横浜開港資料館, 1991 年, P.65)

(9) ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館

江戸・明治期の袱紗 55 点を所蔵している。(前

掲『袱紗』PP.211~212)

(10) ホレイシュ・コレクション(ロンドン)

ベアトの助手をつとめた日下部金兵衛の「金兵衛アルバム」, 玉村康三郎の「日本の情景」(1890 年代のヨコハマ), 東京駅(絵葉書), 絵葉書帖「日本の町並」, 「第五回内国勸業博覧会記念絵葉書」(1903 年)「エドワード朝時代『日本』ピンナップ写真絵葉書」などがある。(前掲『JAPANと英吉利西展図録』による。

(11) リンカンシャー・ライフ・ミュージアム  
ヨコハマに駐屯している英軍第 10 連隊第 1 大隊の写真があり, 「君が代」の作曲者として知られるフェントン指揮の軍楽隊が写されている。1870 年ごろの第 1 大隊の将校たちの写真もある。

(12) ランベス宮殿図書館

未知の同国人あてのウィリアム・アダムス書翰(写し)がある。

(13) バリーデビス・ギャラリー(ロンドン)

明治時代の工芸品を所蔵している。

B: イタリア

(1) イヴレア市立美術館

P・A・ガルダの集めた東洋美術のコレクションがあり, 花瓶や燭台など江戸の工芸品 60 点を含んでいる。(原田一敏「イヴレアの P・A・ガルダコレクション」, 『国立博物館ニュース』第 539 号, 平成 4 年 4 月 1 日)

(2) ジェノヴァ東洋美術館

春信の「風流座敷八景扇水晴嵐」, 湖龍斎の「風流十二季の栄花」がある。(『芸術新潮』1991 年 3 月号, P.35,59)

(3) 国立公文書館バルバリーゴ分館

「フランチスコ・ダ・ロッカ記録, N 2513—2642」130 枚(天正 7 年まで)が存在する。これらは 1943 年発見された旧ソデリーニ伯爵家所蔵の資料である。(東郷隆『信長の野望覇王の海上要塞』, KOEI, 1991, PP.254~257)

(4) バチカン秘密文書館(ローマ)

支倉常長一行のボルゲーゼ枢機卿への贈呈品目録(1616, 2, 17)がフィオーレ女史により発見され, 屏風(4 双), 漆机, たんす, 棚, 書き物机, 書見台(6 点), 筆入れ(6 点), 銅製香炉(4 点)

などを含む。(『月刊文化財発掘出土情報』1991, 12月号, P.213)

(5) プライデンセ図書館 (ミラノ)

天正少年使節がクレモナに3日間滞在したときの記録である『天正少年使節旅行記』(ドラコーニ社刊)がある。(石井高『秀吉が聴いたヴァイオリン』, 主婦の友社, 1989年, PP.26~27)

C: オランダ

(1) アムステルダム国立美術館

「色絵櫻閣山水文蓋付鉢」などの伊万里, 「ヤボンセ・ロック, Japonse Rok」(日本風着物, 1700~1750年)「螺鈿円形盆」(長崎, 1830), 「榎嶺花鳥画譜」(明治16年), 「暁斎画譜」(明治14年), 「画本虫撰(むしえらみ歌麿, 天明3年), 「絵本手引草」(広重, 嘉永2年)などがある。(『オランダ美術と日本—1680~1991』, サントリー美術館, 1991年による。)

(2) アムステルダム動物園水族室

「ハンザキ (オオサンショウウオ) 飼育記録」…シーボルトが1830年7月持ち帰ったもので, 50年間も生きていたという。(『毎日新聞』1992年1月24日夕刊)

(3) ハーグ国立中央文書館

(イ) ヤン・コック・プロムホフ文書…桂川甫賢(W, Botanius)の蘭文書簡などを含む。(鳥井裕美子『桂川甫賢考—在蘭史料にみるW・ボタニクス』, 『日蘭学会会誌第15巻第1号, 1990年10月, P.45~)

(ロ) ①「平戸和蘭商館記録」

② A・J・ボードイン書簡…1859~1874年, 100余通(石田純郎編著『蘭学の背景』思文閣出版, 1988年 PP.181~184)

(ハ) 「ドンケルクルチウス覚え書」…1852, 10, 30~1855, 12, 25(フォス美弥子編訳『幕末出島未公開文書』, 新人物往来社, 1992年)

(4) ハンプトン・コート宮殿

「伊万里色絵花鳥文六角壺」が存在する。

(5) フロニンゲン美術館

佐治吉兵衛の「黒漆蒔絵櫃」(1650年ごろ)とド・ゼーヘルス未亡人と子息の作品「黒漆楼閣山水人物盆」(1875年)がある。(前掲『オランダ美術と

日本』, P.30)

(6) ボイマンス・ファン・ビューニンゲン美術館 (ロッテルダム)

フランス・ズヴォロの「茶入」(1899年)がある。

(7) ライデン国立民族学博物館

(イ) 「瓦経片」があり, 法華経巻第二譬喻品第三の一部であるという。(延久三年, 1071)(難波田徹「シーボルトが持ち帰った瓦経片」, 『中世考古美術と社会』, 思文閣出版, 1991年, PP.359~363)

(ロ) 河鍋暁斎の「シルクハットを被る男」はフェリックス・ティコティン旧蔵で第二次大戦中博物館にゆずられた。(前掲『暁斎の戯画』, P.80)

(8) ライデン市古文書館

「ターフェル・アナトミア」のオランダ人著訳者であるディクテン関係の資料がある。(石田純郎「十八・十九世紀のヨーロッパ社会の構造と医療」, 『実学史研究 VI』, 思文閣出版, 1990年, P.67)

(9) ライデン大学解剖学博物館

長崎にあるものと同じ型の「キュンストレーキ」(分解できる解剖模型 Kunst lijk のことで, フランスの解剖学者オゾー-Auzouxにより作られた。)(前掲『蘭学の背景』, P.198)

D: スイス

(1) スイス連邦文書館 (ベルン)

慶応3年(1867)5年21日付の「徳川慶喜よりスイス大統領あて国書」がある。

(2) ボー (パウエル)・コレクション (ジュネーブ)

(イ) 鳥海斎栄昌の「郭中美人競, 扇屋内花扇」を所蔵する。(『浮世絵聚花—フォッグ美術館・ネルソン美術館』, 小学館, 1990年, P.205)

(ロ) 小柄, 印籠, 根付, 漆器, 国芳の版画がある。

これらについて, “Alfred Baur, Fondation A・E: Baur Collection, 1989”および“The Baur Collection, Geneva, Japanese Lacquer by Piene-F. Schneeberger”がある。これらの入手については, スイス在往の宏子・ハイネマン氏の御高配を得た。ここに記して感謝の意を表する。

E: ドイツ

(1) アントン・ウルリッヒ公博物館 (ブラウ  
ンシュヴァイク)

「秋草蒔絵小箱」, 「山水蒔絵文庫」などがある。(前  
掲『ケンペル展図録』, P.77)

(2) ゲッチンゲン大学

「日本地図」および大黒屋光太夫の書簡があり, エ  
カテリーナに謁見したことをかれは「天下様の所  
におり申候」と記している。

(3) ケルン市立民族学博物館

銅製の「踏絵」一面がある。(『ケンペル展図録』  
P.76)

(4) ドイツ連邦文書館・軍事資料館 (フライ  
ブルク)

1200 ページにおよぶ「戦争日誌」があり, 1941  
年のモスクワ米英ソ三国会談の史料となっている。

(5) ノルトライン・ウェストファーレン州立  
文書館 (デトモルト)

ケンペルの「遺書」(1716 年)がある。(『ケンペ  
ル展図録』, P.139)

(6) バイエルン国立図書館 (ミュンヘン)

マティアス・クラディウスの「日本皇帝謁見記」  
(『ワンデスベッカー・ボーテ』第3巻, 1778)

(7) ハイデルベルク大学図書館

ゲオルク・マイスターが東インドや日本で行  
なった調査の結果をまとめた「東インドの庭園技  
師」(初版, 1692 年, ドレスデン)がある。(『ケン  
ペル展図録』, P.72,155)

(8) ハンブルク工芸美術館

春信の「風流艶色真似ゑもん」がある。(『芸術  
新潮』, 1991 年 3 月号, PP.51~52)

(9) ハンブルク国立公文書館

幕末に在日したドイツ商人の書簡を所蔵する。  
(生熊文『ギルデマイスターの手紙』, 有隣堂, 1991  
年)

(10) プルヴェラー・コレクション

「伯楽集」(寛政 9 年), 岳亭春信画「山水奇観狂歌  
集」(文政前期), 「三都廼友会」(みつのともえ)  
…北溪・千春画, 天保 3 年, 「得吉方廼滝」(とき  
わたのたき), 天保 4 年などを所蔵する。(『ドイ  
ツ・プルヴェラーコレクション浮世絵版画名品展

図録』, 朝日新聞社, 1991 年)なおこれらの狂歌本  
は, 現在までのところ天下一本である。

(11) プロシア財団ベルリン国立図書館

アンドレアス・クライアーの“Flora Japonica”  
27 枚がある。(『ケンペル展図録』, PP.69~71, 153  
~155)

(12) ベルガモン博物館

東アジアコレクションがあり, 江戸時代の陶磁  
器・版画・絵画を含む。

(13) 西ベルリン国立図書館

山崎宗鑑自筆の「誹諧連歌」がある。(『竹馬狂  
吟集・新撰犬筑波集』, 新潮日本古典集成, 1988 年,  
P.312)

また日本関係の資料について, エヴァ・クラフ  
ト氏の論稿がある。「ベルリン国立図書館の日本関  
係の蔵書・蔵品に関して」(『秘蔵日本美術大観 7,  
ベルリン東洋美術館』, 講談社, 1992 年, PP.256  
~257)

(14) ベルリン東洋美術館

葛飾北斎の作品を所蔵する。ほんの一部をあげ  
てみると「近江八景三井乃晩鐘」, 「素人義太夫」  
「猫の恋」, 「放下師」, 「桶屋」, それに摺物「羽根二  
枚」などである。(『特別展, 北斎一不屈の画人魂  
図録』, 名古屋市博物館, 1991 年)さらに土佐広周  
「天稚彦草紙」(下巻のみ), 守拙の「山水図」, 柳  
沢淇園「百花百虫図」, 渡辺華山「福祿寿図」(文  
化 10 年, 21 歳), 松村呉春「山水図屏風」(六曲一  
双), そして大観・玉堂・御舟・素明などの近代日  
本画もある。(『ベルリン東洋美術館名品展図録』,  
東京都庭園美術館, 1992 年)

(15) ベルリン美術工芸博物館

「緞子檜扇模様織」…これは壁かけ用で二代川島甚  
兵衛の作であり, ドイツ皇室への献上品という。

(16) ボン大学

(イ) 図書館アンドレアス・クライアーの「ツ  
ツジに関する論文」(1685 年), ウィルヘルム・ドー  
ム編「日本誌」のドイツ語初版 2 冊 (1777, 1779  
年)がある。(前掲『ケンペル展図録』による。)   
またクライアーの「お茶に関する論文」(1682)も  
存在する。(ヨーゼフ・クライナー編『ケンペルの  
みたトクガワ・ジャパン』, 六興出版, 1992 年, P.

58)

## (ロ) 日本文化研究所

「キリシタン禁令高札」(天和2年, 1682)がある。

## (17) リンデン博物館 (シュツットガルト)

ベルツが集めた三千点をこえる日本絵画がある。文人画・琳派・円山派・四条派, 洋風画があり, とくに狩野派の作品の模写図が多い。さらにラグーザお玉の「村落風景図」などの水彩画もある。(『朝日新聞, 1991年9月5日』の記事による。)

## F. ノルウェー

## (1) オスロ工芸美術館

象牙, 漆器, 陶磁器などの工芸品を有する。

## (2) トロンヘイム工芸美術館

陶磁器等日本の工芸品がある。

## G. フィンランド

## (1) ヘルシンキ工芸美術館

明治初期の工芸品や各種の民俗資料がある。

## H. フランス

## (1) ギメ美術館

法隆寺金堂の阿弥陀如来像の右脇侍であった勢至菩薩像(貞永2年, 1232, 康勝作)が発見された。(『朝日新聞, 1991年3月18日号』の記事による。)

## (2) パリ国立図書館

海外で発行された最古の日本語新聞で, レオン・ド・ロニーにより慶応四年四月一日発行された「よのうはさ」創刊号が発見された。(『毎日新聞』1992, 7, 16夕刊)

## (3) ブザンソン市立美術館

蠣崎波響の「夷酋列像」(11面, 寛政2年, 1790)が里帰りした。(『蠣崎波響とその時代展図録』, 板橋区立美術館, 1991年, PP.28~31)

## (4) モレブリエ東洋公園 (パリ郊外)

28ヘクタールにおよぶ回遊式日本庭園がある。

## (5) ラヴァル城 (パリ西方)

アンブロアズ・パレの『パレ全集』(シッペル版)が存在する。これと同じものが長崎に伝えられ, 著者の名は伏せられて『紅夷外科宗伝』となった。(森岡恭彦『近代外科の父・パレ』, NHKブックス, 1990年, P.45)

## (6) リヨン織物美術館

江戸・明治期の袱紗11点を所蔵している。(前掲『袱紗』, P.213)

## (7) リール市立図書館

ムリエ所蔵の日本書籍があり, ルクレール編の「カタログ」もある。(ドベルグ・美那子「ムリエ蔵書目録と初期フランス日本学」, 『日本洋学史の研究X』, 創元社, 1991年 PP.253~)

## (8) ル・ペール・コレクション (パリ)

歌麿の「蚊帳の内外」, 「梅か絵」, 「美人気量競」, そして長喜の「口紅」などがある。

## I: ポーランド

## (1) 日本美術センター (クラクフ)

F・ヤシンスキ・コレクションは, 木版画浮世絵4600点を有する。その他, 絵画・彫刻・陶器・漆器・織物・武具等7000点がある。(『AERA』, 1992年4月21日号)

## J: ユーゴ

## (1) ベオグラード国立美術館

中国美術や浮世絵を所蔵するといわれるが, 詳細は不明である。

## K: ロシア

## (1) 外務省文書資料館 (モスクワ)

(イ) ヤルタ協定に関する文書がある。

(ロ) 北方四島は日本領としたニコライ一世のブチャーチンあて「訓令」, およびブチャーチン書簡がある。

## (2) 科学アカデミー・コマロフ植物研究所 (サンクトペテルブルク)

シーボルト・コレクション中「フローラ・ヤポニカ」の原画となった植物画981枚を所蔵する。(『科学朝日』, 1991年11月号, PP.36~39) また無名の画家東谷筆の植物画「ヒギリ」など16点がある。(『朝日新聞』, 1992年4月20日夕刊)

## (3) 国立中央古文書保管総局

写真400枚など, 「シベリア捕虜収容所記録」がある。(『週間読売臨時増刊』, 1990年12月20日号)

## (4) クンストカーメラ (サンクトペテルブルク)

大黒屋光太夫の遺品である「浄瑠璃本」がある。

## (5) ロシア国防省中央文書保存所

日本に対する開戦予定、北海道占領計画など日本占領関係資料がある。(1991年1月4日、午後9時よりのNHKテレビによる。)

(6) 海軍資料館(サンクトペテルブルク)

保田孝一氏(岡山大)が発見したニコライ一世の訓令を記した700ページにおよぶ「皇帝陛下日本皇帝への図書」がある。

(7) 赤軍博物館(モスクワ)

ゾルゲの「活動記録」がある。

(8) 国立中央映画写真記録保存所

記録映画「日本の撃滅」や「日ソ停戦会談」(1945年8月19日)などがある。(『朝日新聞』, 1991年6月5～6日)

(9) プーシキン美術館(モスクワ)

1890年代に来日したセルゲイ・キタエフの7000点におよぶ浮世絵コレクションがある。北斎の「上野」, 「桜の下馬」はいままでその存在は知られていなかった。(『朝日新聞』, 1992年6月25日夕刊, 『芸術新潮』, 1992年7月号, PP.83～85)

(10) ユジノ・サハリンスク郷土博物館(旧豊原)

日本占領時代の写真や文書, 旧国境標を保存する。「明治三十七・三十八年戦役記念海軍大将片岡七郎」と銘のある大砲二門もある。(宮脇俊三『韓国・サハリン鉄道紀行』, 文藝春秋, 1991年, PP.174～175)

L: 南アフリカ共和国

(1) ケープタウン国立文書館

(イ) 1651～1789年にたわる「オランダ東インド会社基地司令官日記」がある。(ただし2年分欠)

(ロ) 「住民登録簿」中に, 「日本から来たアントニー(1666年)」、「日本の地から来たアントニー」(1670, 1673年)とみえる。(『朝日新聞』, 1991年11月1日)

M: マレーシア

(1) 第二次世界大戦資料館(コタバル)

資料館は旧日本憲兵隊庁舎であった。「1941, 12, 8, 2:15 倭美支隊5300人上陸」と記録にある。(『朝日新聞』, 1991年12月1日)

N: ニュージーランド

(1) 国立公文書館

FECB(イギリス極東連合局)の真珠湾以前のJN 25 解読資料(1940, 12, 30)がある。(ジェイムズ・ラスブリッジャー, エリック・ネイブ『真珠湾の裏切り』, 文藝春秋, 1991年)

O: カナダ

(1) ヴィクトリア資料館

ヘンリー・スペンサー・パーマーの「日記」には, 「1864年2月9日薩摩賠償金を払う」とある。

P: アメリカ

(1) アーサー・M・サックラー美術館(ハーバード大)

鈴木春信の「石山寺秋月」, 「俄雨」がある。(『芸術新潮』, 1991年3月号, P.8, 18)

(2) アバディーン実験場歴史資料室(メリーランド州)

「対日毒ガス戦計画資料」がある。

(3) アメリカ海軍安全保障本部(ワシントンDC)

「赤」(A型暗号), 「青本」(昭和5年採用), 「JN-25(海軍のD暗号)」の「暗号帳」がある。(前掲『真珠湾の裏切り』, P.301)

(4) オルバニー歴史美術博物館

「ブリューイン公使書簡」はジョン・マンジロー関係資料である。

(5) イスラエル・ゴールドマン・コレクション(ニューヨーク)

暁斎の「動物のサーカス」, 「タカに追われる風神図」, 「ネコとナマズ」, 「武士と異人の問答」がある。(前掲『暁斎の戯画』, P.13, 64, 75, 81)

(6) ウースター美術館(マサチューセッツ)

ジェームズ・マクニール・ホイッスラーの「陶器の国の姫君のためのスケッチ」(1863～64年)がある。(前掲『JAPANと英吉利西展図録』, P.72)

(7) カンサス大学付属スペンサー美術館

「摺物」268点を所有している。1991年6月にその一部114点が里帰りした。北斎の「元禄歌仙貝合きぬた貝」がある。(『リッカー美術館開館20周年記念特別展図録』, 1991年)

(8) アメリカ合衆国国立古文書館

岩倉使節の「大統領謁見記録」(1872年3月4日)と, 日本使節団の「礼状」(1872年8月6日)

が存在する。(宮永孝『アメリカの岩倉使節団』, ちくまライブラリー, 1992年, P.121,215)

(9) サンダ・バーバラ美術館

袱紗はポーラ・アンド・アイラ・グリック・コレクションの46点がある。(前掲『袱紗』, PP.216~217)

(10) サンフランシスコ公立図書館

1872年12月6日付の「サンフランシスコ・クロニクル」に岩倉使節団の到着記事がのっている。(前提『アメリカの岩倉使節団』, P.35)

(11) シカゴ美術研究所

春信の「明和二年絵暦」と「座敷八景」がある。(『芸術新潮』, 1991年3月号, P.27, P.46)

(12) スタンフォード大学図書館 (カリフォルニア)

1945年10・11月の「米軍月例報告書」があり, 朝鮮人慰安婦関係資料である。

(13) ダグウェイ生物化学戦研究所

8000枚のスライドから成る731部隊関係資料がある。(『Bart』, 1992年6月22日号, 集英社, P.22)

(14) チェスター・ビーティー図書館 (ダブリン)

(イ) 「武蔵坊弁慶絵縁起」(室町末期写)がある。(徳田和夫・矢代静一『お伽草子, 伊曾保物語』, 新潮社, 1991年, PP.24~25)

(ロ) 「豊年踊図巻」(天保10年)を所蔵する。(相蘇一弘「天保十年の京都踊りについて」, 『大阪市立博物館研究紀要』, 22, 1990年3月)

(15) ドブラ・コレクション (ニューヨーク)

ジェームズ・ティソ「日本の工芸品を眺める娘たち」(1869年ごろ) (『JAPANと英吉利西展図録』, P.68)

(16) ニューヨーク市立図書館

(イ) 「岩屋」…室町後期の写しで, 奈良絵本である。(前掲『お伽草子, 伊曾保物語』, P.63)

(ロ) フランク・レズリーの「挿絵入り新聞」(1872, 1, 13)の森有礼(前掲『アメリカの岩倉使節団』P.65)

(ハ) 「太平記絵巻」“スペンサーコレクション”にある。A本はPP.58~88, B本はPP.117~155

である。(宮次男・佐藤和彦『太平記絵巻』, 河出書房新社)

(17) ネルソンギャラリー・アトキンス美術館 (カンザスシティ)

清信の「初世野川市松の久米之助」や「初世大谷鬼次と初世瀬川菊次郎」など多数の浮世絵がある。詳細は『浮世絵聚花—フォッグ美術館・ネルソン美術館』, 小学館にゆずる。

(18) ピーボディー博物館 (セイラム)

河鍋曉斎の「天狗の鼻切り」, 「ひょっとこ踊り」, 「踊りを吹き出す男」がある。(前掲『曉斎戯画』, P.78, P.79)

(19) フリーア美術館

「紙本着色斎宮女御図」…鎌倉時代のもので作者は不詳である。橋本雅邦「紙本墨画淡彩達磨図」とほか4点計6点は現在日本で修復中である。(『毎日新聞』, 1992年6月9日)

(20) F・ロイド・ライト記念館 (アリゾナ州)

広重「江戸名所張交図会」の板本10枚が発見された。(高輪, 堀切之里花昌蒲, 中洲みつ俣別の渕) (『朝日新聞』, 1992年4月7日夕刊, 同毎日夕刊) またアルファ・キュビック・ギャラリーでは里帰り展を開いた。(『フランク・ロイド・ライトと広重』, 京都書院, 1992) さらに『安藤広重江戸名所張交図会』, (F・LL・ライトファンデーション所蔵版木による) が刊行されている。

(21) ブリティッシュ・コロンビア州文書館

① H・S・パーマ肖像写真

② パーマ書簡…ムーディ大佐あて (1862年)

③ パーマ測量報告書…1862年11月24日

④ パーマ「日記」

(『水と港の恩人 H・S・パーマ展示図録』, 1987年, 横浜開港資料館)

(22) ハワイ大学図書館

「宝永七年寅十一月十八日琉球中山王両使者登場行列」…2巻, 旧宝玲文庫本 (横山学『琉球国使節渡米の研究』, 吉川弘文館, 1987年, 口絵, PP.105~117, 田代和生「朝鮮通信使行列絵巻の研究」, 『朝鮮学報』第百三十七輯, 平成二年十月, P.14)

(21) 亡命者古文書館 (サンフランシスコ)

ロマノフ王朝の金塊関係資料 (1918年, コル

チャーク・パトロフ)がある。ハルビン銀行と田中義一が関係しているという。

(24) ボストン美術館(フェノロサ・コレクション)

狩野興以「唐人物図」,「江戸芝居町図」,「歌舞伎役者図」(以上2点作者不詳)があり,狩野永納「四季花鳥図」は初公開である。(『屏風絵名品展図録』,1991年11月,高島屋展,NHKプロモーション)

(25) ポートランド美術館(オレゴン川)

細田栄之「扇屋の中洲仮宅」(ティモシー・クラーク「中洲の盛衰」『国華』,1152号,1991年,毎日新聞社,P.21)

(26) ミリセント図書館(マサチューセッツ州フェアヘブン)

「漂異紀畧」…写本,中浜万次郎の漂流関係資料である。

(27) ミルズ大学アートギャラリー

野村正治郎のコレクションであった袱紗56点を所蔵する。

(28) メトロポリタン美術館(ニューヨーク)

武具展示室が1991年11月8日に一般公開され,二室が日本コーナーとなった。展示品140点の中には足利尊氏が鞍馬寺に奉納した大よろいや後藤家の三所物などがあり,その多くは1900年来日したバシュフォード・ディーンが収集したものである。(『朝日新聞』1991年11月9日夕刊,『芸術新潮』1991年12月号,PP.70~79)

(29) ヘイズ夫妻コレクション

江戸・明治期の袱紗引点がある。(前掲『袱紗』,PP.215~216)

(30) ローゼンバッハ美術館(フィラデルフィア)

「漂流紀略」…中浜万次郎口述,川田小竜(画家)編集,4巻,水彩押絵54枚,John Mang(サイン),1852年

(31) ブルックリン美術館

容藤広重の「1. 日本橋雪晴」(安政三年五月)から「118 王子装束ゑの木大晦日の狐火」(安政四年九月)までの118枚から成る「江戸名所百景」がきわめて保存のよい状態で現存している。この

度日本で出版されることになって,我々の眼にふれることになった。(ヘンリー・スミス『広重名所江戸百景』,岩波書店,1992年)

(補遺)

(1) リッペ州立図書館

「ケンペルの「サイン帳」が保存されている。(1690,1691年)元禄三年十月廿六日の所にナムラゴンハチ,同四年二月十四日の所にタナカヘエモンとみえる。(前掲『ケンペル展図録』,P.138)

(2) ブランデンシュタイン城(ドイツ)

フランクフルトからほど近いツェッペリン伯の城である。シーボルトと姻戚関係にあったこの調査が財団法人シーボルトカウンスルによって行われた。「東海道」の絵,「下関の図」や「最上徳内之像」(川原慶賀によって描かれ,シーボルトの『日本』にのせられたもの),「樺太図」,「安倍川」,「夜の富士川」,「富士川之図」,その他めずらしいものが多い。(『ヨーロッパに眠る日本の宝』長崎県立美術博物館展覧会図録,1990年8~11月による。)とくに重要なものは二枚の日本地図で,一枚は京都より南,もう一枚は京都より松前までとなっていた。(秦新二『文政十一年のスパイ合戦』,文藝春秋,1992年,口絵,P.253)この日本地図については,1992年4月5日の『朝日新聞』に紹介記事がある。『日本』にのせられている地図の原図と考えられている。

(3) ジュネーブのThe BAUR COLLECTIONのRoom10,11は日本関係の美術品が陳列され,BAURが1924年に来日して以来の収集によるものである。内容はThe Sword and its ornaments,鍋島などのCeramics,印籠などのLacquer wares, Netsuke, Tea-ceremonyを含んでいる。(“THE BAUR COLLECTION, GENEVA, 1981”,前掲宏子・ハイネマン氏の御恵蔵による。)

(4) シエナ国立文書館(イタリア) Archivio di Stato, Siena

「シエナ年代記」1584年の条に天正少年使節関係の記事がみえる。(松田毅一『近世初期日本関係南蛮史料の研究』,風間書房,1981年,PP.77~78)

(5) ピーボディー博物館(アメリカ,セイラ



ム)

1799年フランクリン号でアメリカ人としてはじめて長崎を訪れたデブロー船長が長崎からもたらしたものに、出島の描かれた漆の盆と、ナイフとフォークをおさめる漆の箱とがある。(ピーター・フェチコ「セイラム・ピーボディー博物館とその揺籃期」, ジョン・セイヤー, 守屋毅他著『モースの贈り物』, 小学館, 1992年, P.229)

#### (6) ベルリン国立東洋美術館

歌川国芳の天保中期に画かれた戯画「魚の心」を所蔵する。(稲垣進一・恵俊彦編著『国芳の狂画』, 東京書籍, 1991年, P.142) この作品は1992年1月里帰りした。(前掲『ベルリン東洋美術館名品展』, P.139, Fische mit menschlichen Zügen)

(7) 1992年8月15日午後9時45分からNHKテレビ放送による情報。

#### (イ) 陽明書屋 (台湾)

1945年10月の「国防最高委員会ファイル」によると、天皇の問題は日本国民が独自に決定することであり、中国は皇室を戦犯とする提案は単独ではしないことが決定された。

#### (ロ) ロシア共和国外務省資料館

ソビエトの作製した「戦犯リスト」があり、その中には三井、中島飛行機、日本銀行などがあげられているが、天皇はない。

(8) エルミタージュ美術館 (サンクトペテルブルク)

国際日本文化研究センターの調査によると、1500点の浮世絵の存在が明らかになった。春信の「茶の湯」、春章の「四代目市川団蔵」、文調の「四代目市川団十郎の悪七兵衛景清」は新発見のものである。また広重の「京都名所」や「江戸名所百景」もあった。(『毎日新聞』, 1992年8月15日の記事による。)

#### (9) ハーグ国立中央文書館

オランダ海軍機関将校であり、長崎製鉄所の主任技師であったハルデス関係の資料を所蔵する。すなわち「機関部将校名簿」「Stemboeken Machinisten」や軍籍簿「Staat van Dienst」などである。(楠本寿一『長崎製鉄所』, 中公新書, 1992年 P.64以下。)

(10) ウプサラ大学植物学博物館 (スウェーデン)

リンネ生誕百年の1807年に開園した大学植物園内にある博物館には、ツンベルクが日本から持ち帰った標本が保管されている。(松永俊男『博物学の欲望—リンネと時代精神』, 講談社現代新書, 1992年, P.145)

#### (11) サハリン州公文書館 (ロシア)

1945年秋以降の行政記録や中央政府の命令書などがある。また「スターリン暗号文」とよばれる1946年3月以降の千島占領政策に関する資料が存在する。(1992年8月23日午後9時, NHKテレビ放送による。)

(12) シーボルトの採集した植物標本が次の2か所に存在する。

#### (イ) プリュッセル国立植物標本館 (ベルギー)

#### (ロ) ボゴール Bogor 植物園 (インドネシア)

ボゴールはジャカルタの南にあり、1745年以来オランダ総督府の所在地で、オランダの遺産をひきついだ施設が多いといわれている。(木村陽二郎・大場秀章解説『日本植物誌—シーボルト「フローラ・ヤポニカ」』, 八坂書房, 1992年, P.143)

(13) ロシア中央植物園 (サンクトペテルブルク)

1860年9月18日箱館に來たマキシモウィッチの関係資料がある。すなわち手書きのノート・図画とアジアの植物標本類である。(上野益三『博物学者列伝』, 八坂書房, 1991年, P.293)

#### (14) 海外交通史博物館 (中国福建省泉州)

1974年洛陽江后渚の干潟から発見された13世紀ごろの南宋末古船があり、「山中」(日本人か)と記された荷札もある。(大村次郎「出土した宋代の木造船」, 『科学朝日』, 1992年10月, PP.146~148)

#### (15) ライデン国立民族学博物館 (オランダ)

歌川国芳の浮世絵の「下絵」60点がはじめて里帰りした。「弓を引く武者」, 「傘をもつ助六」, 「糸を紡ぐおんな達」, 「三匹の猫のスケッチ」などである。1992年9月東京上野の松坂屋で「江戸のポップアーティスト国芳画展」が開かれた。(同展『カタログ』, 1992年, 財団シーボルト・カウンシ

ル, PP.89~91)

(16) 昌徳宮「ソウル」

朝鮮通信使に対する返礼として贈った屏風絵のうち、狩野友甫宴信(やすのぶ)筆「芙蓉に雁図」(6曲1双)がある。(武田恒夫「贈朝鮮国王屏風について」、『日本美術工芸』, 639号, 『史学雑誌』第101編第5号, 山川出版社, P.142)

(17) グラスゴー大学図書館

明治時代の御雇い外国人の一人で地震学者のミルンがケルビン卿にあてた書簡(1893年3月7日付)がある。北政巳氏が発見したものでミルンが、帰国せざるを得ない状況下にあることがわかる。(『有隣』第298号, 1992年9月10日の記事による。)

(18) アジア・ソサエティ(ニューヨーク)

ロックフェラー3世夫妻のアジア美術コレクションがあり、その一部が日本で初公開された。日本のものでは、尾形乾山「色絵芦雁文透鉢」や、下絵が伝俵屋宗達、詞書が本阿弥光悦の「竹下絵和漢朗詠集詩歌巻」(一卷, 寛永3年), 酒井抱一「松藤図屏風」(二曲一双, 文化年間)などが展示された。(『アジア美術名品展図録』, 出光美術館, 1992年10月)

(19) シカゴ美術館・グリーブランド美術館

「融通念仏縁起」の上巻はシカゴ美術館に、下巻はグリーブランド美術館に所蔵されている。第二次大戦後に流出したものである。(小松茂美編集・解説『融通念仏縁起, 続日本の絵巻21』, 中央公論社, 1992年, 上巻 pp. 1~43, 下巻 pp. 44~91)

(20) 村瀬実恵子編『日本障屏画名品展一在米コレクション』, 岩波書店, 1992年にのせられたもののうち、主要な作品を列举する。

(イ) レイトン・ロング夫妻コレクション(ニューヨーク)「定家詠水無瀬宮和歌図」, pp. 74~79

(ロ) ネルソン・アトキンズ美術館(カンザスシティ)「松梅図」(海北友松), pp. 83~86

(ハ) ジャクソン・バーク夫妻コレクション(ニューヨーク)

①「秋社酔帰図」, 「蘭亭修禊図」(池大雅), pp. 94~96

②「誰ヶ袖図」(17世紀前半), pp. 122~127

③「吉野・厳島花見図」(17世紀前半), pp. 130~135

(ニ) ヴァージニア美術館(リッチモンド)「武蔵野図」(17世紀前半), pp. 106~109

(ホ) バーク財団(ニューヨーク)「茨木図」(柴田是真), 明治時代, pp. 190~191

(ヘ) カウンティー美術館心遠館(ロサンゼルス)「三十六歌仙図」(pp. 163~166)や「白鷺図」(p. 31)をのせる。

(21) パリ国立図書館東洋写本室

日本部門には2700冊ほどの明治以前の古書コレクションがあり、そのうち十八世紀前半から1876年までに収蔵された900冊の目録が小杉恵子氏により作成された。(「パリ国立図書館における十八~十九世紀収集和古書目録稿一ティチング・シーボルト・ストゥルレル・コレクションを中心として」, 『日蘭学会会誌』第17巻第1号, 1992年10月, pp. 85~103)

(22) 浮世絵の源流といわれる中国の「年画」が中国北京図書館に所蔵されているが、その一部「七月七日, 織姫, 彦星に会う」など61点が町田立市国際版画美術館に展示された。(『中国北京図書館収蔵作品, 中国の年画展』図録, 1992年1月5日~2月11日)

(23) (イ) ケルン市立東洋美術館

アドルフ・フィッシャー氏が蒐集した日本美術品の一部があり、二代鳥居清倍の「糸売り藤五郎」など86点が里帰りした。

(ロ) ブレーメン美術館

春章の「絵本舞台扇」や歌麿の「汐干のつと」など117点の里帰りである。北斎の「富嶽百影」はめずらしいものである。(『ドイツの古都に眠る秘蔵浮世絵名品展』図録, 1992年10月, 日本浮世絵協会)

(24) 大英博物館

ウィリアム・ゴランドにより、明治十年代に写されたと考えられる古墳の乾板写真が、200枚以上あることがわかった。(『朝日新聞』, 1992年11月23日付の記事による) 以上